誕生の瞬間から ミニの足元を支えてきた 老舗ホイールブランド

F1からダカールラリーまで、カテゴリーを問わずモータースポーツの現場で活躍するOZ。しかし、同時にアフターマーケットでもその存在感を示し続けている。とりわけミニとは深い関係があるから、現在進行形でミニオーナーに愛されるのも当然なのだ。

Text&Photo＝小松ひろ

オーゼットジャパン
代表取締役●内山晶弘さん

内山社長も、実は1971年1月生まれ。そうOZが誕生した年月なのだ。「運命的」と笑顔を見せてくれたが、内山社長がOZに関わるのは必然だったのかもしれない。

OZは、1971年1月にイタリアでスタート。そして今年は50周年という記念すべき年を迎えた。今や世界にファンがいるホイールメーカーだが、実はミニと浅からぬ縁で繋がっている。

元々OZは、ガソリンスタンドを営んでいたオゼッラドーレ氏とゼン氏が、ミニでラリーに参戦するにあたり、「もっと良いホイールを」と製作したのが始まり。OZ第一号のホイールは、その名も『Mini』。そして、ミニとの関わりは、現行モデルになっても薄まることはなく、45周年時には、Miniのリメイク版、『アニバーサリー45』が発売された。

OZジャパンの代表、内山さんは「OZは世界70ヶ国で売られていますが、実は日本での販売実績は5位以内。日本でどんなモデルが売れそうかなどという意見も求められますよ」という。「クラシック時代も含め、ミニはカスタマイズする層にも好まれます。ワクワクするんですよね。OZはそんな方たちにぴったりのホイールではないでしょうか」。

現在も密接にモータースポーツに関与し、その技術を投入したホイールをリリースするだけに、ユーザーが求めるのはスポーツイメージなのだろうか？

「ミニオーナーさんのホイールの好みは、千差万別です。もちろん、軽量のスポーツモデルも人気ですが、JCWでもドレスアップ系ホイールを選ぶ方は多いんですよ」。意外だが、それこそオーナーたちが自由な発想でカスタマイズするミニらしさともいえよう。そしてOZには、そんな多種多様な嗜好のオーナーを満足させる、バラエティに富んだラインナップがあるからこそだ。さて、引き続き、OZの魅力を紐解いていこう。

今年1月に設立50周年を迎えたOZ。第一号ホイールとなったのが『Mini』。ラリーに参戦するミニクーパーに履かせるホイールを製作したのが始まりだ。合金リムを採用したホイールは、当時のラリーレースで優勝を果たしている。50年前からその技術力は証明されていた。

OZ
オーゼット
https://www.ozracing.com/jp/

1984年にレーシング用ホイールのみを製造する会社が設立され、まず、F1用のホイールが製造されたという。2015年にはフェラーリとのパートナーシップを結んだ。現在OZは、F1では10チーム中7チームにホイールを供給する。フォーミュラEのホイールはOZのワンメイクだ。モータースポーツの現場でOZ製品は圧倒的なシェアを誇る。

レースフィールドでも 圧倒的な存在感を放つ

ミニでのラリー参戦が創業のきっかけのひとつだっただけに、OZはその後もモータースポーツにも注力していく。世界的に見ればOZ＝レースホイールメーカーなのだ。

「FIA主催のトップカテゴリーレースにはほとんど関わっています。OZホイール装着チームが表彰台を独占することも多々。タイトル獲得数は100をゆうに超えています。F1へは1985年から参戦し、現在は10チーム中7チームにホイールを供給しているんですよ。電気自動車のF1、フォーミュラEはOZのワンメイク（限定）です」と内山さん。F2、F3もOZのワンメイクだが、フォーミュラ車両だけではない。ラリーでは、WRCのワークスチーム全車に供給しているほか、自動車メーカーがつくる競技車両のGT3でも、メルセデス・ベンツやランボルギーニ、マクラーレンに供給するなど圧倒的なシェアを誇るのである。このように、レースの世界では他の追随を許さない。F1からダカールラリーまで、求められる要素がまったく異なる、あらゆるカテゴリーに関わっているのだ。

つまりはそれだけの技術力とノウハウがあるということ。そう簡単には言うが、話を伺っていくと半端なものではない。「F1でも、各チームのオーダーごとにつくり分けています。パワーやタイヤ、冷却、空力……重視するポイントに合わせて形状を決めます。たとえ同じカテゴリーに参戦するホイールでも、厚みや削り方、塗装に至るまで同じものはありません」。

こういった蓄積は、市販品にも活かされていて、『アテリエ・フォージド』ブランドは、なんとレーシング部門が製作しており、剛性やデザインなどF1の技術が惜しみなく投入されている。残念ながらミニ用の設定はないのだが、今後のラインナップに期待したい。

しかし、剛性や軽量を追求したモデルばかりでないのが、OZの面白いところだ。「性能を突き詰めた商品はいくらでもつくれるんですが、アフターマーケットに必要とされるポイントも忘れません」と内山さん。スタンダードモデルには、実際にF1やラリー車に装着されるデザインを落とし込んだホイールをラインナップするなど、見た目でもユーザーの心をくすぐってくる。それでも、モータースポーツで磨き上げられた技術を感じ取れるのは、アフター用ホイールは、日本はもちろん、世界各国の安全基準すべてをクリアした製品ということだ。

OZのみの技術として『マグネシウム鋳造』、通称“マグ鋳”ホイールも製作している。10インチサイズを持ってみると、まるで発泡スチロールと錯覚するほど軽い！ ラリーのトップワークスチームやF2、F3に採用されている素材だそうだ。

「アルミの5倍の強度があるんです。割れたり歪んだりせず、長持ちするので、一部カテゴリーのレースホイールはマグ鋳が常識になってきていますね。しかしつくるのは大変。溶鉱炉もあって危険が伴うので、工場は隔離された場所にあるんですよ」。

このように、進化しながらモータースポーツ界を席捲するOZは、50周年となる今年、新たなニュースを控えている。現時点では詳細は伝えられないが、次号で発表ができる……かも!?

モータースポーツシーンでも大活躍するOZは、益々“ワクワク”を提供してくれそう。50周年の今年も、これからもOZはまだまだ加速していきそうだ!

『Zeus HLT FORGED』は、センターキャップにまで鍛造を採用し、圧倒的な強度と剛性を追求した。市販品でも、アテリエ・フォージドには、軽量化や剛性を追求するため、F1などのモータースポーツ参戦車両用ホイールに採用される技術を盛り込んでいる。

高度な技術が要求されるマグネシウム鋳造製品もある。アルミの5倍の強度があり軽量で長持ち。F2、F3カテゴリーに供給している。OZは、学生フォーミュラも応援していて、参戦学校の1/3校にマグ鋳ホイールを供給。写真は学生フォーミュラ用に提供するマグ鋳10インチホイールだ。

写真右はF1用ホイール。そのデザインをインスパイアしたアフターホイールが『Ultraleggera（ウルトラレッジェーラ）』（写真左）だ。またOZのレーシングチームが製作する、軽量・剛性を追求した『アテリエ・フォージド』ブランドもラインナップする。

1980年代WRCで大活躍したシトロエンの足元にはOZの『ラリーレーシング』があった。ホワイトを基調に大きなブランドロゴ、グラベルで砂利がブレーキにかまないように設計されたディッシュにもスポークにも見える個性的なルックスは、今見ても新鮮。それを市販車用にリメイクした『ラリーレーシング』はOZホイールを象徴するデザインだ。

OZジャパン本社に展示されていたクラシカルOZホイール。大きなディッシュ面、短いスポーク等々、『ラリーレーシング』に通じるデザインが採用されている。オフィスでは歴史的モデル、F1を戦い抜いたホイールなどを見ることができた。

『スーパーフォージアータ』に採用されるのは、独特の照りがインパクト抜群な「セラミックポリッシュ」。OZならではの技術で、小粒なセラミックにて磨きを掛ける仕上げを施したスペシャルカラーだ。ミニには非対応なのが残念。

記憶に刻み込まれるイタリアンデザイン

モータースポーツの世界で鍛え上げられ、磨き上げられてきたOZ製ホイール。それゆえ、スポーティなイメージを持つ人も多いかもしれないが、OZ製ホイールはデザイン性の高さも特徴なのだ。

内山さんに伺うと、「アフターマーケット用ホイールは、デザイン性も重要です。性能を突き詰めるだけでは、デザインがある程度限られてしまうんです。しかしクリエイティブさを求めるならデザインが大事。我々にはホイールは『楽しくなければ』という思いがあります。美しさも求めたい」。OZはイタリア生まれのブランドだけに、美しさも追求するイタリア人らしい感性が詰め込まれている。

デザインはOZが特にこだわっている部分だ。例えばスポークの先端の細かいエッジにまで気を配る。だからOZのホイールはどこを切り取って見ても美しい。

OZでは全世界の代表らによって定期的に国際会議も開催されている。そこではデザインへの様々な意見交換がなされるという。各国の流行・人気を調査しながらも、流行りには乗らずにつくる。イタリアンスタイルを貫くのがOZだ。

内山さんも国際会議などで積極的にアイデアを発信しているという。F1マシンをイメージさせるセンターロック風のホイールカバーに対して、付けても外しても見栄える2ウェイ化を提案したのは内山さんだ。それは見事に採用され、現在対応モデルが増えている。

全体で見ると、人気は『スーパーツーリズモ』や『ウルトラレッジェーラ』。定番モデルは、変わらず今でも人気が高いそう。ユニークなのは『ラリーレーシング』だ。

「3年前に登場したモデルです。WRCで1988年にデビューした『ラリーレーシング』のレプリカモデルですが、当時のホイールを知らない人からも反応があるんですよ」。白地に大きなブランドロゴは今見ても新鮮で、ディッシュともスポークともとれる形状も斬新。その反響は、「予想以上」と内山さんもいう。

OZは、最先端のテクノロジーを採用したスポーツモデル『i-TECH』、ドレスアップ路線でも人気の『Xライン』、スタンダードスポーツ『SPORT』など、様々なシリーズを展開する。さらにイタリアの自動車用品メーカーとのコラボで生まれた『スパルコ』、欧州の伝統ブランドにして日本でも欧州車の冬季用ホイールとして認知度を高めている『MSW』も展開中。そのどれもに、イタリアンスピリットが注入されている。我々を満足させてくれるホイール、それがOZだ。

赤いラインが特徴的なセンターロック風のカバー。実はこれには内山さんのアイデアが採り入れられている。カバーを外した状態でも使える仕上げを提案。その結果、センターカバーによって2つの表情が選べるホイールが完成した。現在、『スーパーツーリズモ・エヴォルツィオーネ』や『インディ HLT』などに採用されている。

OZ製品はイタリアでデザインされ、イタリアで製造されている。デザインだけでなくクオリティ面にもこだわっており、世界でもっとも高い基準といわれる、品質と安全を保証するTUVの認証を受ける。また、自動車産業に特化した国際規格であるIATFの認証も受けている。

OZ Atelier Forged

OZ独自の発想と技術を注ぎ込んだ『アテリエ・フォージド』。名称の通り鍛造品であり、F1などで活躍する世界最高レベルのモータースポーツ部門のエンジニアたちによって製作される、比類なきパフォーマンスを誇るシリーズだ。現段階ではミニ向けの設定はない。

OZ i-TECH

レーシーなスタイルで人気の『OZレーシング』。その中の最先端のテクノロジー、最高峰のパフォーマンスを誇る『i-TECH』は、OZのレース技術を具現化したハイパフォーマンス・スポーツシリーズ。SUVやミニバンなどをターゲットに据えた『ALL Terrain』も展開する。

OZ SPORT

OZレーシングには、OZの伝統を色濃く受け継ぐ『SPORT』もラインナップする。Ultraleggera（ウルトラレッジェーラ）などを代表に、目を引くデザインと技術を誇る。イタリアのレーシングスピリットが凝縮されたスタンダード・スポーツシリーズだ。

MSW

ヨーロッパで大人気のOZのセカンドブランド『MSW』。“ローブライスでクールなスポーティデザイン”がコンセプトで、日本においても輸入車向けの冬季用ホイールとして人気が高まっている。ただ、冬季用としてだけ使うのはもったいないほどのデザイン性の高さ。

SPARCO WHEELS

レーシングウェアなど、世界中のモータースポーツファンが愛用するイタリアの自動車用品メーカー、スパルコとOZとのコラボレーションにより生まれた『SPARCO』。北米でも大人気だそうで、ディーラーオプションとして取り扱われている車種もあるのだとか。

OZ SPORT
Rally Racing

5万1700円～（税込）
17×7.0～19×8.5
Dark Graphite+Silver lettering、Race White+Red lettering、Gloss Black+Bronze lettering

1988年にWRCでデビュー以来、究極のグラベル（非舗装路）ホイールとして君臨し続けた『ラリーレーシング』をリメイク。跳ね石や土埃からブレーキを守るデザインをそのまま独創的に昇華。3年前に登場したモデルだが、今でも高い人気を維持している。定番のホワイトの他、ガンメタも独特の風合いがあって魅力的。

OZ SPORT
Superturismo Evoluzione

7万4800円～（税込）
18×8.0～20×8.5
Gloss Black+Red lettering

『スーパーツーリズモLM』から進化したスポーツホイール。ホイール史にデザイン革命をもたらしたセンターロックカバーを標準採用。装着、非装着で2つの表情を楽しめる。伝統のデザインに先進のスタイルを追加した、注目度◎の一本だ。

おすすめOZホイールをPICK UP

OZの多彩なラインナップから、ここではミニにおすすめのホイールをピックアップ。定番モデル、人気モデルを中心に各シリーズから紹介したい。ホイール交換を検討している方はもちろん、すでに交換済みの方も、OZホイールがほしくなってしまうこと間違いなし！

MSW
MSW 30

4万4550円～（税込）
17×7.5～18×7.5
Gloss Black Diamond Lip、Gloss Black Full Polished

『MSW 30』は、抑揚に富んだ15本スポークが特徴的で、グロスブラックをベースにしたディスクに、リムのみをシルバーで仕上げたダイアモンドリップと、スポーク天面もシルバー仕上げとしたフルポリッシュドの2種類から選べる。

OZ i-TECH
Leggera HLT

6万500円～（税込）
17×7.5～20×10.0
Grigio Corsa Bright、Gloss Black、Race Gold

『レッジェーラHLT』は、レーシングテクノロジー5オープンスポークを採用し、最高レベルの剛性と軽量性を実現。美しく鍛え抜かれたアスリートフォルムは、スポーティスタイルを追求したいミニにぴったりだ。カラーは3色を展開。

OZ i-TECH
HyperGT HLT

5万9400円～（税込）
17×7.5～20×11.0
Star Graphite

世界のレースシーンで圧倒的なシェアを誇るOZのレーシングテクノロジーを凝縮した『ハイパーGT HLT』。軽量性などパフォーマンス面に加え、存在感溢れるデザインまで手に入れた、『i-TECH』シリーズ最高峰のモデルである。

SPARCO WHEELS
Procorsa

4万150円～（税込）
17×7.5～18×8.0
Gloss Black、Hyper Dark

SPARCO WHEELSで、最初にメッシュデザインが設計された『プロコルサ』。センターキャップには“S”があしらわれる。スポーティさを追求するユーザーを満足させるモデルだ。ミニ用としては17インチ、18インチがラインナップされ、ミニ用サイズでのカラーは、グロスブラックとハイパーダークの2種類を設定する。

OZ SPORT
Superturismo LM

5万3900円～（税込）
17×7.0～19×9.5
Matt Graphite、Matt Race Silver、Matt Black、Race Gold

ル・マンの名前を与えられた『スーパーツーリズモ-LM』。ル・マン24時間レースをはじめ、世界のGTレースからフィードバックされた先進のレーシングテクノロジー、そしてOZ伝統のマルチスポークがスポーツテイストをプラスする。

SPARCO WHEELS
Terra

4万150円（税込）
17×7.5
Gloss Black

OZのWRCでの経験を活かしたスタイルを採用した。ユニークな中央の形状は、オフロードレースにてホイールの遠心力によって投げ出された石等からブレーキを守るためのもの。ミニ用は17インチ、グロスブラックのみの設定となる。